

コロンビアニタイー

日本政府

春の叙勲受章者を発表

南加在住者は4人

日本政府は3日、平成21(2009)年秋の叙勲受章者を発表した。在ロサンゼルス総領事館管轄区域在住者で、

は、ゴードン・マーク・パーガー氏(旭日中経章)、金井紀年氏(旭日小経章)、原田・恒男・キャビー氏(旭日小経章)、山口弘氏(旭日双光章)の4人に対して授与される。各受章者の対日功績を口氏に対する伝達式は当地で実施される予定。

山口 弘氏(84歳)

前日系バイオニア・センター会長(旭日双光章)



ノースリッジ市在住。カリフォルニア州生まれ、第二次世界大戦を挟んで8歳から23歳までを日本で過ごし、米国に戻った後、スタンフォード大学を卒業し、航空宇宙開発関連企業に就職した。同社に勤務中、日本から数多くの技術者を受け入れて指導し、さ

まに先進技術の日本への移転に貢献した。

1966年、日本語を使用する米国初の電波メディアでありラジオ放送を行うホームキャスト社の設立と同時に代表取締役副社長となり、日本語による報道や娯楽を日系社会に提供。後に同社をテレビ放送に発展させ、日系社会における放送メディアの育成に貢献した。また、92年に毎日新聞社の米国法人であるファックス毎日社の設立に関与して代表取締役社長となり(2001

年まで在職)、日本の新聞が海外へ数日遅れで郵送されておりにインターネットもまだ一般に普及していなかった時代に、日本の新聞の米国におけるファクシミリによる迅速な配信を実現した。

同氏は、退職した後、地域社会への奉仕活動に力を注ぎ、南加鹿児島県人会会長、南加県人会協議会副会長、南加日系商工会議所副会頭などを歴任。とりわけ、リトル東

京を拠点に活動する日系高齢者向け福祉サービス・センターである日系バイオニア・センターでは、04年から副会長を、06年から09年までは会長を務め、日系コミュニティにおける高齢化の急速な進行や経済情勢の悪化といった厳しい環境の中、ファンドレイジングや事業内容の充実尽力し、日本人・日系人高齢者の福祉向上に大きく貢献した。